

子ども達の豊かな成長・発達の力を合わせるようにしましょう！

教え子を再び戦場に送るな！ 2016年12月22日発行NO. 574

## 勤務負担軽減 抜本的な対策を！

### 必要な人員を配置すること クラスの人数を減らすこと

豊中市教委が小学校の高学年の週授業時数を27時間にせよと繰り返し返す学校現場に迫ったり、12月の出勤調査の報告を求めたりと動いています。

市教委のこの動きの背景には、8月に豊中市公平委員会から出された勤務条件に関する勧告があります。

### 豊中市公平委員会が勧告 ○勧告本文より

豊中市教育委員会は、豊中市立小中学校の教職員の実質的な休憩時間の確保と時間外労働の解消のために、これまでの取り組みを継続するとともに、その取り組みについて、今後、計画的、継続的に、その実施状況を調査し、十分に実施されていなければ、その実施の徹底を図り、また、その効果を調査して、十分な効果が上がっていないならば、取り組み内容を改善したり新たな内容の取り組みを実施するなどした上で、改めてその実施状況や効果を調査する必要がある

ことを認める。

全教豊中は、休憩時間確保と時間外労働解消のとりくみをすすめることを求めた市公平委員会の勧告を評価しますが、市教委が進めようとしている具体的とりくみについては問題ありと考えます。

### 現場を混乱させる 「負担軽減計画」具体化！

市教委の「勤務負担軽減推進計画」。具体的方策・取り組み内容として次のことをあげています。  
(イ) 会議・職員行事等を精選し、週1日(水曜日)会議デーとする。  
(ウ) 会議デー以外の日にやむを得ず会議・職員行事等をもつ場合には、時短短縮や授業力アップなどの方法で所要の時間を確保。

多くの学校で水曜日以外にも会議が入っています。そのたびに市教委は授業カットしろと本気で考えているのでしょうか！

(エ) 小学校においては1単位時間の削減をおこなう。  
高学年週授業27時間を執拗に求める教育委員会。教育課程は、地域や学校の実態がさまざまであり、各学校ごとに考えて編成するものです。

(オ) 学校行事の内容の再検討、行事に充てる時数の縮減  
クラブ・委員会の回数削減や遠足を社会見学にすることをあげています。

肥大化は問題ですが、学校が楽しい場所であるためにも行事が果たしている役割は大きいものがあります。  
市教委の役割は年間を通じて、ゆとりをもって学校教育がすすめられるように条件を整えるように応援することです。

負担軽減を理由にしたこれらのとりくみは負担軽減につながらないどころか、学校現場を混乱させるだけです。

### 校務支援システム

中学で先行している「校務支援システム」が

小学校でも説明が始まります。「ペーパーレス化」「打ち合わせ会議の短縮」とうたっています。教職員がのぞむ「校務支援」とは大きな違いがあります。

学期はじめ、学期末の事務軽減の具体化をすすめることなど、現場の声を生かした具体的施策を求めます。

### 抜本的な対策を！

いっこうに解消にすすまない時間外労働。「勧告」も指摘する国・府まかせでなく、豊中市に勤務する教職員の時間外労働解消のため抜本的な対策を求めます。そのため必要な予算化をすすめることを強く求めます。

### 公平委員会とは

地方自治法・地方公務員法により定められた、職員の勤務条件に関する措置の要求及び職員に対する不利益処分を審査し、並びにこれについて必要な措置を講ずることを職務とする行政委員会である。

、地方公務員の労働基本権が制限されていることの代償措置の一つとして設けられているもの。

# インド・ラダックへの道(3)

小曾根小 綱島 典子

いよいよ本題のラダック地方である。

ラダック地方はインドの北部に位置する山岳地帯で、東を中国のチベット自治区、西をパキスタンに囲まれている。国境が確定していないエリアでもあり、場合によっては物騒でもある(現にこの9月、パキスタン軍との間に戦闘があった)。

さてここに、チベット族が昔から住んでいる。彼らの多くはチベット仏教を信仰しており、他の文化・風習もインドナイズされてはいるものの、チベット色が色濃く残っている。

ラダック地方のチベット人(チベット民族のこと



チベット仏教の仏像

をこう呼ぶ)たちは、中国政府に弾圧されまくって日々投獄や虐殺の危機におびえている本場のチベタンたちに比べ、活気がある。インド政府に保護されているし、街なかのショップでは堂々とダライラマ14世の絵葉書なんかを売っちゃったりする。まるでアイドルである。

寺の中にもでかかど彼の写真があり、説法があれば遠方からでも晴れ着を着て聞きに行く。「とにかく明るいチベット」なんである。

ダライラマ法王は毎年ラダックに避暑に来ては周辺地域で法要を行っている。調べてみると誰でもいきなり参加できるらしい。しかも今年の日程は私の誕生日だった。これは行かねばなるまい。つまり私は、ただインドに呼ばれたのではない。ダライラマ14世に呼ばれたのだ、誰が何と言おうとダライラマが呼んでくれたのだ。

法要は隣村の僧院で約3時間に渡って行われた。



法要を聞く僧侶たち

会場にはド田舎にもかかわらず何千人もの人々が詰め掛けていた。難しい仏教の話はチベット語はもちろん英語で聞いても分からなかったが、とりあえずこれだけは分かった。「長生きしたければ、ドラッグや酒・たばこに手を出してはいけません。そして自分の健康に意識を向けなさい」

82歳にして世界中を飛び回っているダライラマに優しい声で言われると、なるほどそうだなあと思うのだが、残念ながら私は酒と手を切ることはできそうもないのだった。(続く)

## 「21世紀にふさわしい教育を」 「部落問題学習」を考えるQ&A

大阪教育文化センター「部落問題解決と教育」研究会

Q8 学校で教えたことが逆効果になったのは本当ですか。  
A8 5年前の府の調査にも結果が出ています。

「人権問題に関する府民意識調査報告書(分析編)」が2012年に出されています。そこでは、人権学習について次のようにコメントされています。

▼小学校、中学校、高校での学習が特に役に立った(一番印象に残っている)と回答した人において有意な効果が認められない。(p.69)

▼様々な学習形式の中で、効果のある学習形式を見出すことはできない。(p.31)

▼「差別意識はさらに強くなっている」と認識している人の人権意識が高いわけではありません。また、「同和問題は知らない」という人の人権意識が低いわけでもありません。(p.53)

▼予期せぬ「効果」として、学習経験を積むほど、「就職差別や結婚差別は将来もなくすことは難しい」という悲観的な意識が広がったということも指摘しておかなければなりません。(p.73・74)

「予期せぬ「効果」とは白々しいものです。1990年の府民意識調査でも、小中学校で解放教育読本「にんげん」を使って学習した者、大学で部落問題学習をした者、人権啓発講座を受けた者ほど、部落に対してマイナスイメージを持っていることが府民から指摘されてきました。

